

2015(平成 27)年度卒業式・修了式 式辞

平成 28 年 3 月 22 日

皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

永年にわたりご子息・ご息女を支えてこられましたご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

本学にとりましても、関係各位をはじめご来賓の皆様方のご臨席を賜り、平成 27 年度の卒業式・修了式を挙行できますことは、大変に誇らしく、大きな喜びであります。

総数 2,033 名の方が所定の全課程を修了し、晴れて本日のこの式典に臨むことができますのは、皆様ご自身の平素の切磋琢磨の賜物であり、心より深く敬意を表します。

このなかには、6 カ国 の 78 名の留学生の方々もおられます。留学生の諸君は異文化の中で、きっとさまざまな困難に直面され、それを克服し、そして立派に初志を貫徹されました。その努力を心から讃えたいと思います。

同時に、これまでの長い大学教育の期間、皆様のご家族、恩師、先輩、同僚、後輩、そして社会から受けた恩恵には計り知れないものがあります。

また、皆様が大学生活を送った本学は、大阪市民の大学として約 269 万の市民によって支えられてきたという事実にも思いを馳せていただきたいと思います。

皆様の多くは社会に巣立ち、高度な専門的職業人となることが期待されています。また、大学院に進学してさらに学業を続ける人、医療に従事する人、研究者として第一歩を踏み出す人もおられます。

いずれにしましても、今後も大阪市立大学の卒業生・修了生の名に恥じないよう努力し、それぞれの領域で自らの目標を達成してください。

本学では、それが実現できる教育に努めてまいりました。自信と誇りを持ってこれからの人生を歩んでいただきたいと願っております。

現在進行しております本学と大阪府立大学による新大学設立について少しお話を申し上げたいと思います。

2012年から提示された話ですが、大阪の成長に貢献する公立大学のあり方を、外部有識者の意見を踏まえて将来ビジョンを策定するために、2013年1月に外部有識者による「新大学構想会議」から「新大学構想〈提言〉」が示されました。これを受け、府立大学とともに、新大学の教育・研究分野についての検討し、2013年10月に両大学と府市の4者による「新大学案（10月版）」を策定しました。

その後、都構想が否決されたのち、市長より新たに両大学による大阪における公立大学の在り方について問われ、昨年2月に「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を策定いたしました。

我が国の人口急減、超高齢化という直面する大きな課題や、今後の30年先の大阪を考え、公立大学として「大阪の知的拠点」として貢献できうること、新大学の設立により、よりパワフルな拠点として研究・教育の強化による人材育成や地域貢献の高度化、分野拡大ができること、大阪うめきたの第2期工事予定地域にグローバルキャンパスを設置することで、より公立大学として大阪に貢献できることを謳っております。

これからは、本学がこれまでに培ってきた歴史、伝統を踏まえ、現在のブランド力を維持・充実させつつ円滑に新大学に継承・発展させうる新たな大学の在り方を世に問うことになろうと思います。

皆様におかれましては、ご卒業後も本学の今後の動向、新たな大学の姿を注視していただき、温かいご支援をいただければと願っております。

昨年、本学は創立135周年を迎えました。昨年の12月18日にグランフロント大阪のナレッジキャピタルシアターにて「日経ユニバーシティ・コンソーシアム 大阪市立大学創立135周年記念フォ

ーラム 都市大阪の創生～未来への提言」を本学と日本経済新聞社で開催いたしました。本学のOBであるコマツの相談役 坂根正弘氏と東京大学教授の吉見俊哉氏の基調講演、大和ハウス工業代表取締役会長 樋口武男氏と本学OGのシンクタンク・ソフィアバンク代表藤沢久美さんの対談、そして同じく藤沢久美さんのファシリテーターで本学の錚々たる教授陣の先生方によるパネルディスカッションが行われ、本学の都市大阪での都市創りの活動や多くのプロジェクトの実績、そこから導かれる将来の都市創りへの提言が述べられ、本学の先輩や卒業生、市民を含め満員の聴衆をうならせたと大変に誇りに感じました。

2011年に各学部同窓会から全学同窓会となり、このあとお話をいただくことになっている児玉隆夫元学長を会長として、すでに活動を活発に行っていたいただいております。

さらには、海外におきましても、上海同窓会の活動があり、2013年11月に本学の上海交流拠点を設置しました。今年はこの3月3日にタイのバンコクにおいて本学の交流拠点の開設レセプションを行いました。当地のチュラロンコン大学やタマサート大学の関係者はじめ、20数年、タイに滞在しておられる本学OBなど多くの方々のご出席をいただきました。今後インドネシアのジャカルタにも同窓会の活動があり、これらの支部とも活発に連携を取っていきたいと考えております。

同窓会活動も国際色を帯びてきております。皆様もこれから海外での活動の機会が多々あると思いますので、全学での同窓会活動はもとより海外の同窓会活動にもご参加いただき、海外で活躍する諸先輩との交流を温めていただければと願っております。

一昨年、10月に新たに「大阪市立大学夢基金」を設立いたしました。これまでもキャンパス整備事業を積極的にすすめてきておりますが、今後は「夢基金」で学生食堂、クラブ部室の整備などを計画的に行いたいと思っております。昨年4月から「大阪市のふるさと納税制度」も利用できるようになっておりますので、どうぞ「大阪市立大学夢基金」にご支援をいただければと願っております。

この一年余り、NHK 連続テレビ小説「あさが来た」で脚光を浴びた明治の実業家、五代友厚の銅像除幕式がこの3月19日に行われました。商学部学舎の横隣りに、今春の生誕180年に合わせて全学同窓会により2年前より準備を進めていただき、多くの卒業生のご寄付によってできました。

たまたま朝ドラで明治の大阪の商家や社会情勢が生き生きと表現され、それが、また、視聴者からも大変な人気を博していることで、偶然ではありますがたいへんにタイミングのよい行事となり、当日、五代友厚役を演じたディーン・フジオカさんにもご登場を願い、大変に賑々しく除幕式を行うことができました。

激動の時代の大阪、経済の立て直しが望まれる現在の状況と酷似の時代背景を持つ明治前後の時代に明るく元気に生きた広岡浅子(白丘あさ)を描いたドラマです。

彼女の開明的な考えに大きな影響を与えた友厚がたいへんにうまく描かれています。

五代友厚、幼名を「徳助」、薩摩島津藩の書込奉行の次男。徳助14歳の時、門外不出の南蛮人が描いた「世界地図」を見、徳助がふと疑問に感じた。「薩摩は何処に？」おぼろげに琉球の場所は分かっていたが、薩摩どころか日本列島はなく、ただ青く塗ってあるのみの海のみが広がっていた。当時のヨーロッパ人には日本列島は認識の外。これが、世界を意識した彼の最初の事件でした。

15歳の折、徳助の強い希望で、父親の琉球への船旅に同道する。生涯の友人となる同年齢の中津重崇と旧知になる。この友人、重崇が異国人と話をするのを目撃する。これは徳助の2番目の衝撃的事件。エゲレス語との遭遇である。これを契機に徳助のエゲレス語の独学が始まる。

世界地図に日本列島がないことに衝撃を受けたこと、漂流後のジョン万次郎からアメリカでの生活や学問の話聞く機会をえたことなどまさに世界観が途方もなく広がったということでしょうか？ 明

治維新の16年前のことです。

一方、江戸時代、大坂は商都として、全国の台所を一手に賄っていました。明治になり、新政府は中央集権化をめざし、京から東京に天皇を遷都し、政治はすべて東京に集約して、その下で商いも東京に集約されました。東京一極主義の始まりです。

東日本は金、西日本は銀と流通する貨幣の相違があったため、両替業は必須で、江戸時代は北浜には数多くの両替商が軒を連ねていた。また、米の重要な交換場所として、大坂は栄えていたが、新政府の全国一律の貨幣制度は米本位制から貨幣本位制の経済に移り、諸大名への貸付破たん、電信網と郵便事業の普及のため、これらの間屋は寂れ、大坂の町衆は凋落します。当時の大坂の経済破たんはこのような構造的崩壊でした。

漆黒の闇が大坂の街を覆い尽くしたという表現がまさに当たるといえる時期でした。この状況もドラマ「あさが来た」によく表現されています。

才助は「友に厚く」という意味を秘めた「友厚」に名を変え、明治元年に大阪税関長、大坂府判事となりました。大阪の経済凋落を見かね、歯止めをかけるべく、精力的に政府に働きかけ、経済界の再興に奔走し、その後、在野に下って活動を始めます、明治11年に大阪株式取引所、大阪商法会議所（大阪商工会議所）を設立した。

ちなみに経済の担い手を育成するため、明治13年に大阪商業講習所の設立に尽力し、本学の歴史がこのような社会情勢の中で始まります。

友厚は大坂の将来のために、経済機構や人材育成に奔走したといえます。これは黒川重蔵の著なる「幕末を飲み込んだ男--小説 五代友厚--」に述べられています。

五代友厚は明治の時代、やっと鎖国から解放され、国際化がなされようとした時代の歩みであります。連ドラ「あさが来た」の時代は、現在の大坂のたいへんに酷似した時代の流れがあると皆様は感じられたと思います。

この時代に、エゲレス語を習得し、産業革命後のマンチェスターの機械化された工場を見て、日本も追いつき追い越さなければならぬと実感した彼はまさに今いうところの「グローバル人材」であったといえます。

皆様はすでにそのような素養は習得されてきております。皆さまの社会生活や職業人生活において、今までの本学の学びを生かし、そしてご自身の歩みとして一步一步力強く社会に、そして世界に踏み出していただければと思います。

本日は、社会に第一歩を歩まれる大切な日であります。これからは、自分で体験し、経験を蓄積し、自分で学んでいくことが求められます。

いつの日か、諸君は実社会での豊富な経験と実績を後輩の学生諸君に還元していただける機会もあるのではないかと思います。本日のこの日の出発の想いをいつまでも胸に秘めていただければと願っております。

種々の立場で、本学を支援し、本学を愛し、そして本学で再びお会いできることを楽しみにいたしたいと思っております。

皆さま、本学で学んだ「進取の気風」と「在野の精神」を持ち続けてください。

そして健康で充実した生活、そして逞しい生きざまを創ってください。

皆さまの大いなる前途を祝して、本日の卒業式・修了式の私の祝辞といたしたいと思っております。

本日は本当におめでとうございます。